

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300661		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム うぐいす(うぐいす)		
所在地	岡山県津山市瓜生原331		
自己評価作成日	平成26年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370300661-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370300661-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成26年2月18日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関を出ると花壇があり四季折々の花の植かえをし心穏やかに頂いています。廻りには法人の建物が点在しており行事ごとに交流させて頂いています。我がホームもまる12年が経過し入居者様も以前と比べ重度化が進み雰囲気も変わってしまいましたが、「理念に沿った、気持ちのよいケアに努める」をスローガンに全職員奮闘しています。又、年一度、幼稚園児が訪れてくださる事でお孫様が来てくれたと、お爺さん・お婆さんの笑顔に変身、一緒に楽しむ事が出来ています。自慢できることは敬老の日には例年のごとく入居者様のご家族全員が揃い、ボランティア・職員の演奏で、盛大な祝賀会が継続に出来ていること。運営推進会議には多数のご家族様が参加して下さることで交流も盛んにでき感謝していることです。皆様お部屋にこもられずホールに出てこれ大家族として今の瞬間を大切にしてい

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険開始とほとんど同時に登場したグループホームの有りようが15年も経過すると変化し、このホームでもケア全般に転換を迫られる事態となっている。しかし、この地区を中心に幅広く関連事業所を持つこの法人の中で、当初からの理念や役割を確実に踏襲し続け地域に大きく貢献している。今日の訪問中にもある利用者から「ここにずっと居てもらえて有り難い」等の感謝の言葉が聞けたが、この状況の裏側に管理者・職員の弛む事の無い努力の積み重ねがあるからだろう。数多くの優れた業務の中でも今回特に注目したのは、前年度の外部評価を受けての「目標達成年間計画」への真摯な取り組みである。自己評価やサービス評価への対応の仕方がややもすれば曖昧になりがちなの中、このホームの姿勢はより良いケアに確実につながるだろうと確信している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内のよく見える場所に掲げて職員全員が理念を共有し実践に努力している。管理者は、日々の中で実現に向けて指導している。(オンザジョブトレーニング)	一人ひとりのケアの「気づき・考え」に重点を置いた目標達成年間計画を作成し、1ユニット9人の利用者をよく洞察し状況を把握することで、職員の意識改革にも一定の成果を上げ、良いケアに繋がっている。この理念と共有が確実に実践されている事がこのホームを大きく支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(小学校の運動会・ふれあい祭り)同事業所が主催する行事(納涼祭・演芸)に参加し出店で買物などされ社会交流が来ている。地域に向けての四季のホームたより配布。	鶯園の40周年の行事に参加して催し物や地域の人とのふれあいを楽しんだ。秋祭りには子供神輿がホームの玄関前に来てくれたり、幼稚園児が訪問し歌や踊りを披露してくれる等、一緒に楽しく過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族、地域推進会議等で認知症に対する話しをしている。研修・講演等での、いい情報は話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題、要望を検討し、サービス向上に努めている。その中で、ご家族の多数参加が意見を言いやすくし、盛り上がる等で、家族全員に参加を呼びかけし盛り上がる、充実したものになる。	毎回5~8名の家族の参加があり、市の介護保険課、民生委員、愛育委員、職員そして利用者も一緒にお茶を飲んだ後、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。行政からの情報提供、参加者との意見交換等、活発な話し合いがなされ、有意義な情報交換の場となっている。	家族の参加も多く、意見交換や情報交換も活発で有意義な運営推進会議が継続されているので、この会の内容をオープンにしたり、取り組みを活かしてもうひと工夫する等、ステップアップしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修会に参加。運営推進会議で市の担当者が来られる事でホームの状況やケアの取り組みを伝えられている。ご家族の意見がでることにより回答が次回に繋がるなどで好ましい取り組みが出来ている。	市の担当者は毎回、運営推進会議への出席があり、参加者との質疑応答にも誠意をもって対応してくれる。利用者の医療行為の問題等を含め、些細なことでも相談をし、助言・指導を仰いで、日頃から連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会・セミナー等参加。組織会議でも、正しく認識するよう日々努力し内容についての話し合い等行っている。日中は玄関、窓を解放している。野外に出られる方には一緒に付き添っている。	津山市主催の「高齢者虐待防止研修会」に職員3名が参加し、内部研修会でも話し合い職員間で情報共有している。玄関の施錠はしていない。外に出てしまう人には職員が見守り、付き添いを行っているが、状況によっては家族にも電話で経過報告をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、申し送り、ミーティング等に話し合い、職員への理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の研修参加。情報などで職員は概要を理解出来ており、日々努めている。当方では現在必要とされる方はいないが、今後必要な方が入れば活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があれば再度同意の取り直しもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・ご意見箱の設置を行っている。面会時、電話連絡時、行事参加等に、日常の様子をご家族にお話し相談をしながら行なっている。ご入居者からは、日々の会話から聴く努力をしている。	運営推進会議への多くの家族の参加は意見や提案を言い易いという相乗効果もあり、家族間交流の良い機会となっている。また、家族の面会も多く、その都度話し合っている。遠くの家族にも毎月の請求書と一緒に状況報告を添えて出し、良い関係を築いている。	ホームと家族との絆は強く、運営推進会議や例えば「母の日を祝う会」等の行事に多くの家族が参加しているため、このような場を十分活用して情報提供や意見交換のチャンスを増やして欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時やミーティングで意見、提案を聴き、話し合いを行い、反映させている。	月1回のミーティングでは毎回、テーマを決めて研修や検討課題を話し合い職員間で活発な意見交換をしている。管理者は「私は姑の役目」と言いながら職員とオープンに話し合い、人材育成にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各事業所会議にて、日頃の努力や、具体的な実績、勤務状況を把握し各自は向上心を持って、働けるよう配慮、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修会へ参加し、各自の向上心と、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資質向上セミナーの勉強会に参加し、市町村との、ネットワークづくりに努めています。又、他のホームから介護実習の依頼を頂き受け入れしている。お互い向上になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には、これまでの生活状況、介護の情報等把握し要望を聞いている。又 入所前にホーム見学していただき関係作りに努め安心して来ていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの様子を電話連絡したり、相談にのるなど努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に何を望まれているか、当サービスを利用することが適切かどうかも検討させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合わせた日常生活を職員と共に過ごしている。床のモップ掛け・テーブル拭き・四季折々の野菜・果物をテーブルに置き皆で懐かしい話題に盛り上がる。お正月に食べようとする柿作りに夢中になれる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際、ご家族に来ていただき食事づくりに参加等で家庭を感じていただく。面会時に時間をとっていただき、ご家族と一緒に行事の作品作りを楽しんで頂く。レクリエーションをして頂く等、喜んで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出される方には元気に生活されている様子を写真にとり送れるよう支援している。ご家族にも協力を得て気分転換を図れるよう外出をお願いしている。現在レベル低下にて難しい面も見られる。面会時にはゆっくり過ぎて頂けるよう配慮する。	家族と出かける定期受診の時に喫茶店に寄ったり、買い物をして帰る人もいる。少人数の外出時にその人の家にちょっと寄り添ってみたいもしている。敬老会は家族と共に食事をし、地域交流も兼ねて地域の人に出し物をお願いし、一緒に楽しんでいる。また、家族の訪問もよくあり協力的である。	家族の協力を積極的にお願する事は、利用者本人にとってもそれまでの関係継続に有効な事と思う。今後も可能な限り馴染みの人に協力をお願いして欲しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの方がホールで過ごされ、互いに馴染みの関係となり、コミュニケーションが出来るよう工夫しています。気の合う入居者同士の席には配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所直後はご家族から電話を頂いたり、こちらからも、今の状況をお尋ねしている。相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。言葉で聴くと「だいたいしょうぶ・なんでもない・ええ・わからん」とニーズの把握は難しいが、日々の関わりの中での様子、表情から汲み取るよう努力している。	プライドを傷つけないように言葉づかいに気をつけている。意思表示できる人ばかりでなく、難しい人には、その人が何気なく発する「言葉にならない言葉」の真意を汲み取り、思いや意向を知ろうと努めている。	利用者の重度化が進み活発な活動が少なくなってきたはいるが、習字や塗り絵・共同で作る作品等、本人の意向に添った楽しみ事がみられる。これらがホーム内だけでなく、例えば地域の文化祭等でも紹介されたなら、もっと輝けるのではないかな。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時の聴き取りと、ご家族からの情報は職員間で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、行動、表情等で一人ひとりを把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、申し送り時に、職員間で意見交換、ケアの統一まで話し合う。介護計画の作成にあたり希望等、お聞きしている。又、面会時に日常の様子をご家族にお話しし、随時、相談しながら行っている。	職員は全ての利用者の特徴を把握し、目配り・気配りを欠かさず「利用者の様子・変化・行動」「職員の考えや失敗等」の気づきを大切にしている。毎月のモニタリングやカンファレンスをしながら、利用者の状況の変化に即したプランを作成しているプロセスは画期的で期待できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや医療に関する情報を共有している。又、気づきや実践を、介護記録に具体的に記入する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人ご家族の状況に合わせて出来る限り支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2ヶ月に一回の理容サービスを活用している。運営推進会議に市担当、地域の役員の方など参加して頂き、周辺地域の支援に関する情報を伺い協力を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診体制を整えており、月4回往診、何かあれば相談し対応して頂いている。通院は原則としてご家族に依頼している。各自、主治医をお持ちの方はご家族が、定期受診にお連れしている。	今日は週1回あるかかりつけ医の往診日であり、他科受診の紹介状も気楽に相談し対応してもらえる。訪問歯科や法人内施設の看護師の訪問も週1回あり、医療連携は万全で安心できる。また、職員は医療問題を抱える利用者の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師の訪問を週一回受けている。それ以外何かあればすぐ様子を見に来て頂け、情報や状況変化を伝え相談して適切な対応が出来るよう支援している。必要な処置などにも来所して頂け協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護添書、情報提供を行い、随時、連絡を取り合っている。退院に向けて、ご家族・病院の相談員からの回復状況を提供して頂き速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時説明して同意を得ている。現在当ホームもレベル低下し、その傾向は強まっている。必要に応じて、ご家族と話し合いの場をもうけ、出来ることを説明しながら本人が穏やかに過ごせるよう努めている。	2ユニット合わせホームでの看取りは本人・家族の希望により過去1名あった。法人内には各種施設があり、本人・家族には入所時に重度化した場合の特養への移行等を含め説明し、意向等を確認している。職員は利用者が可能な限りホームでの生活を継続できるように日々支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや事例を基に勉強会や初期対応の訓練を行い緊急時に備えている。緊急時に備え持ち出しファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回(避難・消火)実施している。近隣の法人関連事業所、地域の消防団とも連絡体制が整っている。職員間で共有している。地震・水害に対する計画等は法人全体としての対応に従う。	年2回、真庭消防署の指導の下、避難訓練、救命救急法の講習等を実施している。消防法改正の話やスプリンクラーが作動した後の水の止め方等、貴重な話もあった。敷地内は法人関連の施設が多く、緊急時の協力体制も構築できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが、我が身にふりかえて考え、尊厳をきずつけないよう、声かけ、行動が行えるよう努めている。	プライバシー保護を大切にし、トイレの排泄時はカーテンを閉め、利用者の右後ろに付き添う、膝にタオルを掛ける等の基本的なケアを含め、ミーティングで話し合っている。職員は一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけないような言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる環境に努め、意思表示できにくい方には、表情や仕草を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせた対応を心がけている。ご本人の体調を尋ねたり、希望を聞き、ご本人のペースを大切に過ごされるよう環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好み、意向を合わせて衣服の選択、整容等、介助支援を行っている。自己決定できにくい方には、着やすい、好きな色やお似合いになるものを考え支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在レベル低下が見られ一緒に準備・片付けなど難しいが、四季折々の野菜、果物等、随時テーブルに並べ「これは何でしょう」で始まり色々な話に花が咲き楽しめるようにしている。又、野菜の筋とり、玉葱の皮むき等、出来ることへの工夫も行っている。	全介助の人もあるが、殆んどの方はスプーンを使う人はなく皆、箸で食事をしている。今日のメニューの鳥のから揚げやお魚の煮付け等も美味しそうに食べ、大目の量でも皆さん完食であった。お手伝いの可能な人には料理の下ごしらえ等、出来る事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度チェックしている。一人ひとりの状態にあった食事形態にしている。(トロミ・キザミ食・糖尿食)お茶の時間は水分が摂取出来るように種類を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、支援している。ポリドント洗浄も毎日している。生き菌の方もおられ各自に合わせたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け把握に努めて、トイレ誘導している。またソワソワされる方のタイミングを伺いながらトイレ誘導排泄を促している。日中はほとんど失敗なく、すむ方もある。	排泄が自立している人もいるが、大半はトイレ介助が必要な人が多い。一人ひとりの排泄リズムを把握し、適宜声掛け誘導をしている。全体的に利用者の重症化が進み、排泄介助に費やす時間が増えたが、職員は見守り、付き添いをしながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、繊維質の多い食材、乳製品等を摂取できるように努めている。排泄チェック表記入し、Drと相談し排便コントロールを行っている。ホールを歩くなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日、午後3時のお茶タイム後から開始。その日の体調や気分に応じて入浴されない方が時にはあるが、入浴を楽しみにされている。入浴拒否される方には、声かけを工夫したり、時間をずらすなどで対応している。	重症化が進んだ人も職員が2人介助して浴槽に入ってもらい入浴を楽しんでいる。中には皮膚疾患の人もおり、入浴時の個別対応を柔軟に支援している。冬期は気温、体調不良等を考慮して1日おきのこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、休息を取り入れた日中の活性化を行い、安眠できるよう工夫している。何度も起きてこられる方のコミュニケーションを図り室温調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している、薬が分かるように、ファイルに薬の説明書を綴じて職員が見ることが出来るようにしている。服薬支援、状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、ゲーム、絵や作品づくり、手紙等の支援、仲良しの世話を役かれるのを自分の役割と思われている方、洗濯物干し・洗濯物たたみ、テーブル拭き等、個々の力に合った事を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体的状況から日常的な外出は困難になっている。時折り職員と食材を買いにい。ご家族の協力のもと、ドライブ・外食も楽しめている。ホームの立地廻りでも四季折々が楽しめて散歩も気分転換になっている。	天気の良い日は付近の散歩や買い物に職員と一緒に出かけたり、お盆に職員同行でお墓参りに行き、お経を唱え、喜んでいた人もいた。軽度の人も数人いるので、職員は希望者と一緒にドライブや食事に時々出かけており、両ユニットとも利用者が元気なうちに家族と一緒に外出し、気分転換を図れるような支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体的状況により関心が見られない、お金の価値感が解らない、買い物は職員に委ねる等で日常的にはできない状態である。買い物に同行された時、好きな品を買い支払いを促すが嫌がられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取り次ぎ、手紙を投函したりしている。声かけでやってみようと言われる方には職員が手伝いながら年賀状を作成しご家族に送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、食卓テーブルなどに観葉植物や花を飾り目を楽しませている。壁には行事ごとの作品や写真を飾ることで季節感や適度な刺激をだしている。広いホールを自由に行動できている。	ホールに入るとお雛様と春の花々が季節感を醸しだしている。広いホールではリハビリを兼ねて、職員と一緒に室内の散歩が日課になっている。どちらのユニットも利用者が心地良く過ごせる工夫が随所に見られ、温かく寛げる共有空間となっている。良い季節にはホームの庭で自然を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールのソファはほぼ座る場所が決まっており、入居者様同士のなじみの関係で落ち着き過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには、名前を掲げ自分の部屋を確認出来るよう目印にしている。ご家族やご自分の写真を飾り、馴染みのタンス、装飾品、小物等、持参する事で、ドアを開けられると自分の部屋だと思われるよう工夫している。	レベル低下が進んだ人が多くなり、日中はレクをする等、全員がホールで過ごす機会が多く、居室は寝る場所となっている。居室入り口の暖簾にも温かい配慮が感じられる。家族の写真や手作り作品、季節を感じる掲示物等、落ち着いた居場所になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、トイレ等に解りやすく表示されている。身体状態に合わせて、自分の力をいかして動けるように工夫している。		